

# 開示書類の記述形式に関する研究

土 屋 和 之

## 1 はじめに

有価証券報告書などの法定開示書類をインターネットを通じて、電子媒体で開示しようという電子開示の取り組みは、わが国においては、2000年に金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム(EDINET, Electronic Disclosure for Investor's NETwork)として始まった。2008年にはEDINETで提出される財務諸表本表について、国際的に標準化された財務報告等に使用されるコンピュータ言語であるXBRL(eXtensible Business Reporting Language)形式での提出が義務付けられるなど見直しが行われている。

その後2011年には大幅なシステムの見直しの方針が公表され、2012年1月から「有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム(EDINET)の次世代システム」の設計、開発が行われ、2013年9月より稼働を開始した。現行EDINETシステムでは、開示書類の二次利用性の向上、検索機能等の向上等を目的としてXBRL化される開示書類の範囲が大きく拡大している。これにより、EDINETが利用者の利便性を大きく向上させることが期待されている<sup>(1)</sup>。

一方で、XBRLが非常に複雑であるため、一般の利用者がXBRL形式での財務諸表を利用するのは非常に難しいのではないかと思われる。また、財務諸表がインターネットを通じて開示されることで、同じインターネットを通じて入手可能なさまざまな情報と一緒に分析に利用したいというニーズもあると思われる。したがって、現行EDINETに求められているのは、XBRL形式の財務諸表がより容易に利用できること、また他のさまざまな情報と合わせて利用できることではないだろうか。

すでにXBRL形式の財務諸表をさまざまな形式に変換しようという試みは行われているところであるが、本研究では、他の情報との利用という観点からXBRL形式の財務諸表をRDF(Resource Description Framework)に変換しようという研究を取り上げ、XBRL形式の財務諸表の利用可能性がどのように向上するのかを検討することにした。

本研究は、以下のような構成をとっている。まず現行EDINETが旧EDINETと大きく異なる点を整理する。続いて現行EDINETの下で、財務諸表がどのようにXBRLで記述されるのかを実際のファイルを見ながら明らかにする。これにより利用者の利便性を向上するためにXBRLが導入されたものの、利用者には利用が難しいことを指摘したい。

次に、XBRL形式の財務諸表をさまざまな形式に変換して、利用可能性を向上させようという研究を取り上げる。インターネットを通じて入手できるさまざまな情報と財務諸表

---

(1) 「「EDINET」刷新、稼働スタート 金融庁」、『日本経済新聞』、2013年9月17日、朝刊。

を一緒に利用することを目的とした研究では、セマンティック Web 技術の応用が試みられている。まず、その中心となる RDF について整理し、それを XBRL 形式の財務諸表にどう応用しようというのか考え方を整理する。

その上で、EDINET で開示されている XBRL 形式の財務諸表を例に RDF の適用が利用者の利用可能性を向上させることができるかを検討することにしたい。

## 2 EDINET の見直しとインライン XBRL

### 2.1 EDINET の見直し

現行 EDINET は、開示書類の二次利用性の向上、検索機能等の向上等を目的に「有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム (EDINET) の次世代システム」として、2012 年 1 月から設計、開発が行なわれ、2013 年 9 月から稼動している。現行 EDINET は、次の 2 点で旧 EDINET と大きく異なっている<sup>(2)</sup>。

1. XBRL 対象書類の拡大
2. XBRL 対象項目の拡大

旧 EDINET では、有価証券届出書、有価証券報告書、四半期報告書および半期報告書の財務諸表本表のみが XBRL の対象範囲であったが、現行 EDINET では、XBRL の対象となる開示書類が、62 様式に拡大されている。この 62 様式には、開示府令 26 様式、内部統制府令 1 様式などが含まれるため、臨時報告書や内部統制報告書も XBRL の対象範囲に含まれることとなった<sup>(3)</sup>。

また、旧 EDINET では、XBRL の対象項目は財務諸表本表のみであったが、注記を含めた開示書類全体に拡大された。有価証券報告書であれば、企業の概況の主要な経営指標等の推移をはじめ、コーポレート・ガバナンスの状況等など経理の状況以外の部分も XBRL の対象となっている。また監査報告書も XBRL の対象となっている。

以上のような変更点は図 1 のようにまとめられる [10, p.18]。



図 1 XBRL 対象書類の拡大と XBRL 対象項目の拡大

(2) 旧 EDINET との変更点については [14] に整理されている。

(3) 対象なる書類の種類など詳しくは [10, pp.19-21] にまとめられている。

## 2.2 インラインXBRL

XBRLは、タクソノミとインスタンスから構成される。タクソノミは、開示しようとする情報の属性を定義したもののいう。属性にはその情報の日本語名称や英語名称、あるいは他の情報との関係などが含まれる。インスタンスは、その定義にもとづいて記述された情報をいう。したがって、開示書類の利用者は、インスタンスである開示書類から必要な情報を探すため、必要な情報がどのように記述されるのかを知るためにタクソノミを参照し、その定義された属性をインスタンスの中から探し出すことになる。

現行EDINETでは、利用されるタクソノミはEDINETタクソノミと呼ばれる。EDINETタクソノミは次の3つに分けられる。

- DEIタクソノミ
- 内閣府令タクソノミ
- 財務諸表本体タクソノミ

DEIタクソノミは、提出書類の基本情報及び開示書類等提出者の基本情報が格納されるタクソノミである。内閣府令タクソノミは、提出書類全体のうち財務諸表本表以外に係るタクソノミである。また、財務諸表本表タクソノミは財務諸表本表に係るタクソノミである。

上に示したXBRL対象範囲の拡大による62様式の開示書類は、書類によって開示内容が異なるため、内閣府令タクソノミは主に府令ごとに分割されている。一方、財務諸表は共通であるため、財務諸表本表タクソノミは1つとなっている<sup>(4)</sup>。したがって、開示書類の利用者は、どの開示書類であっても財務諸表を利用するのであれば、財務諸表本表タクソノミを参照すれば良いが、財務諸表本表以外の情報を利用するのであれば、その開示書類のための内閣府令タクソノミを参照することになる。

一方、インスタンスについては、現行EDINETではインラインXBRLが導入されている。インラインXBRLは、インスタンスXHTMLファイルの中に直接埋め込むことができるインスタンスの形式である。この形式で作成されるファイルはインラインXBRLファイルと呼ばれ、Webブラウザによって表示できると同時に、インスタンスを取り出すことも可能になる。EDINET稼動から、現行EDINETまでのファイルの形式等は図2のように推移している [14, p.3]。

---

(4) 内閣府令ごとの分割単位とその名称は[10, pp.34-37]にまとめられている。

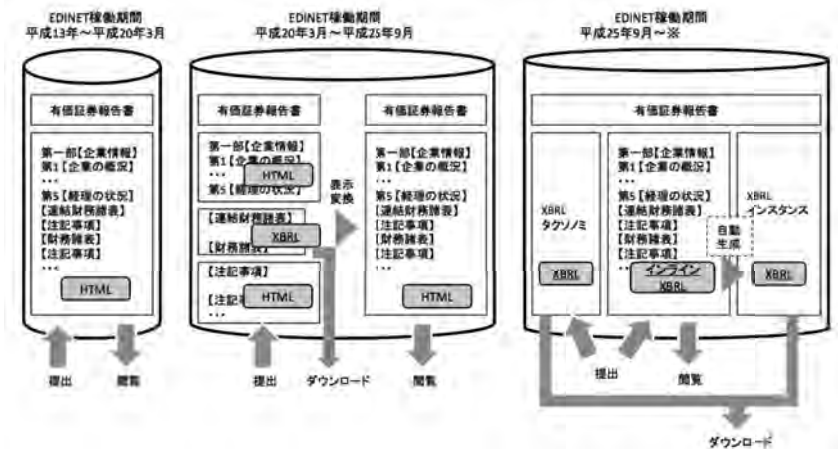


図2 EDINETに採用されたデータ形式の推移

### 3 XBRL形式の財務諸表の複雑性

XBRLの採用によって開示書類の利用者の利便性は向上しただろうか。これまでの研究では、会計基準が異なる場合の国際比較の問題やタクソノミが変更された場合の問題など、いくつかの限界の指摘されている[5, pp.104-105]。

ここでは、現行EDINETで導入されたインラインXBRLについて検討しよう。インラインXBRLのタグ付け方法には大きく分けて、包括タグによるタグ付けと詳細タグによるタグ付けの2つの方法がある。一般的に、文章、表などの複数の情報をまとめて囲む場合に用いるタグが包括タグである。一方詳細な概念で定義されたタグは詳細タグであり、文字列、文章、金額、数値ごとに用いられるタグである。

EDINETでは、財務諸表本表については原則として詳細タグによるタグ付けが行われる。例えば、一般的な第三号様式の有価証券報告書では、第五経理の状況のうち、1【連結財務諸表等】①【連結財務諸表】では、

- 【連結貸借対照表】
- 【連結損益計算書】
- 【連結株主資本等変動計算書】
- 【連結キャッシュ・フロー計算書】

が詳細タグ付けとなっているが、IFRSによって作成される財務諸表については詳細タグによるタグ付けは任意となっている。また、米国基準によって作成された財務諸表については詳細タグによるタグ付けは行われない。

日本基準では、詳細タグによるタグ付けが行われるので、連結貸借対照表に対して図3のようなタグ付けを行い、その中に各項目について詳細タグによるタグ付けが行われる<sup>(5)</sup>。

(5) 以下の例ではHTMLタグは省略している。

例えば、現金及び預金については、図4のような詳細タグによるタグ付けが行われている。上は前連結会計年度の金額、下が当連結会計年度の数額を表示している。

```
<ix:nonNumeric contextRef="CurrentYearDuration"
name="jpcrp_cor:ConsolidatedBalanceSheetTextBlock"
escape="true">
① 【連結貸借対照表】
(詳細タグによるタグ付けされた貸借対照表項目)
</ix:nonNumeric>
```

図3 日本基準による連結貸借対照表の包括タグ

```
<ix:nonFraction contextRef="Prior1YearInstant" decimals="-6" scale="6"
format="ixt:numdotdecimal" name="jppfs_cor:CashAndDeposits" unitRef="JPY">
285,152
</ix:nonFraction>
<ix:nonFraction contextRef="CurrentYearInstant" decimals="-6" scale="6"
format="ixt:numdotdecimal" name="jppfs_cor:CashAndDeposits" unitRef="JPY">
351,125
</ix:nonFraction>
```

図4 現金及び預金に対する詳細タグによるタグ付け

以上のようなインラインXBRLファイルがWebブラウザで連結貸借対照表として表示されるとともに、図5のようにXBRLインスタンスが生成され、公開される。

IFRSでは、連結財政状態計算書として図6のようなタグ付けを行う。詳細タグによるタグ付けは任意となっているため、詳細タグによるタグ付けを行わない場合は、その各金額に対してはXBRLのタグ付けは行われない。

```
<jppfs_cor:CashAndDeposits contextRef="Prior1YearInstant" unitRef="JPY"
decimals="-6">
285152000000
</jppfs_cor:CashAndDeposits>
<jppfs_cor:CashAndDeposits contextRef="CurrentYearInstant" unitRef="JPY"
decimals="-6">
351125000000
</jppfs_cor:CashAndDeposits>
```

図5 現金及び預金のXBRLインスタンス

```
<ix:nonNumeric contextRef="CurrentYearDuration"
name="jpcrp_cor:ConsolidatedStatementOfFinancialPositionIFRSTextBlock"
escape="true">
① 【連結財政状態計算書】
（ここに項目が入る）
</ix:nonNumeric>
```

図6 IFRSによる連結財政状態計算書の包括タグ

## 4 セマンティック Web 技術と XBRL

### 4.1 セマンティック Web 技術と RDF

XBRLのタクソノミの違いを吸収するため、あるいはインターネット上のさまざまな情報とXBRL形式の情報を合わせて利用するための方法として、セマンティック Web 技術の応用が挙げられる。

もともとHTMLで記述されたWebページは、コンピュータによってレイアウトの解釈は可能になっているが、そのWebページに書かれた内容の意味関係(セマンティックス)の解釈はできない。例えば、Webで“cook”を検索しても、その結果が料理を表わすcookか、料理人を表わすcookか、会社名についてのcookなのかをコンピュータは区別することができない。これは“cook”の意味がWebページで定義されていないためである。こうした問題を解決するため、従来のWebを拡張し、Webページの内容の意味を定義しようという試みがセマンティック Web である[13, p.56]。

セマンティック Web を実現するためのいくつかの技術の1つがRDFである。RDFは、その名のとおり、Web上の情報の関係を明らかにするためのフレームワークである。これまでのWebページとWebページが単純なリンクによって結び付けられているのに対して、RDFでは結びつきの属性を示すことでWebページとWebページの間関係を明らかにすることができる。

RDFでは、Webページを含むさまざまな資源を、主語、述語、目的語からなる文で記述する。述語は属性、目的語は値とも呼ばれる。この文によって表現される主語、述語、目的語の3つの組み合わせをトリプルという。次のような例を考えよう。

A社のWebページは<http://www.example.co.jp>である。

この場合、主語はA社、述語はWebページ、目的語は[www.example.co.jp](http://www.example.co.jp)となり、A社という資源についてWebページという属性の値が[www.example.co.jp](http://www.example.co.jp)であることを示している。このトリプルをRDFグラフとして表現する。このトリプルを図で表現したものをRDFグラフという。RDFグラフでは、主語と目的語を楕円(ノード)で表し、この2つを矢印(アーク)で結ぶことでトリプルが表現される。ここで矢印が述語を表すことになる。上のトリプルをRDFグラフで示せば図7のように表現される。

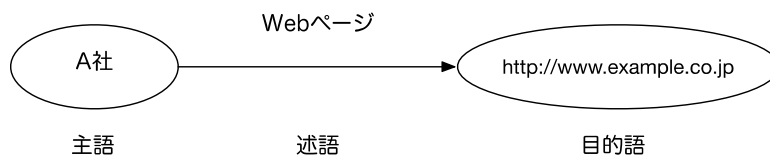


図7 A社のWebページを示すRDFグラフ

さらに開示書類に含まれる情報を考えてみよう。

A社の監査法人はB監査法人である。

この場合、主語はA社、述語は監査人、目的語はB監査法人となる。同様にこのトリプルをRDFグラフにしてみよう。RDFグラフは結合できるので、図7のRDFグラフに加えて図8のように表現できる。ここで目的語がURI参照ではなく文字列である場合、楕円ではなく長方形で表現する。

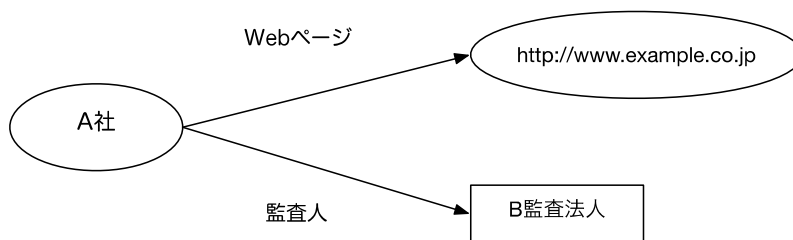


図8 結合されたRDFグラフ

RDFグラフによる表現は人間にはわかりやすいものであるが、コンピュータには理解できるものではない。そもそもコンピュータに理解させるために意味を定義しようと目的から出発したRDFであるので、RDFトリプルをコンピュータが理解できるように表現しなければならない。RDFトリプルをコンピュータが理解できるように変換することをシリアル化 (serialization) という。RDFトリプルのシリアル化にはいくつかの方法が考えられている [12, pp.19-21]。

- RDF/XML
- RDFa
- Turtle
- N-Triples
- RDF/JSON

このうち本研究では、もっとも一般的な表記として取り上げられるXMLでRDFトリプルを表現するRDF/XMLへの変換を検討したい。

RDFについては、しばしばそれがデータ・モデルであるという説明も見られる。会計においては、データ・モデルというとき、会計事象をどのように認識し、モデル化するかと

といういわゆる会計データモデルの議論がある。ここで検討しているのは、どのような会計データモデルを採用すべきか、という問題ではなく、複式簿記という会計データ・モデルを前提にして作成されたXBRLインスタンスである財務諸表を、どう表現するか、という問題である。

#### 4.2 セマンティック Web 技術を使ったXBRL インスタンスの変換

財務諸表の利用者は、財務諸表のみを利用するのではなく、必要に応じてさまざまな情報を合わせて利用すると考えられる。例えば、[6, p.1]では、ファンダメンタル分析に必要なものとして次の2点を挙げている。

- 低コストでデータを柔軟に組織化できること。
- 比較するために意味のあるデータを選択できること。

前者は財務諸表に含まれる会計データに加え、株価などの市場のデータ、為替レート、製品に対する需要、属する業種の見通しなど、さまざまなデータが必要であることを示している。また、後者は分析の意図に合った意味のあるデータが選択できなければならないことを示している。

財務諸表が電子的に開示され、同じようにオンラインで公開される情報と一緒に利用できるようになり、さらに財務諸表の中から必要な情報が取り出せるようになれば、投資家の行ってきたことが安価で迅速に可能となるだろう。

こうした認識から、XBRL インスタンスとしての財務諸表をセマンティック Web 技術を用いて、さまざまな形式に変換しようという研究が行われている。例えば、RDF よりも詳細な意味付けを可能にする OWL (Web Ontology Language) を使って財務諸表を記述しようという研究もある [1, 4]。ここでは、財務諸表を RDF/XML によって記述しようという研究を使って、EDINET の XBRL インスタンスを変換してみよう。



## 5 XBRL インスタンスのRDF への変換

XBRL インスタンスをRDFに変換するために、[5]では、まずXBRLの要素がRDFグラフとして表現されている<sup>(6)</sup>。

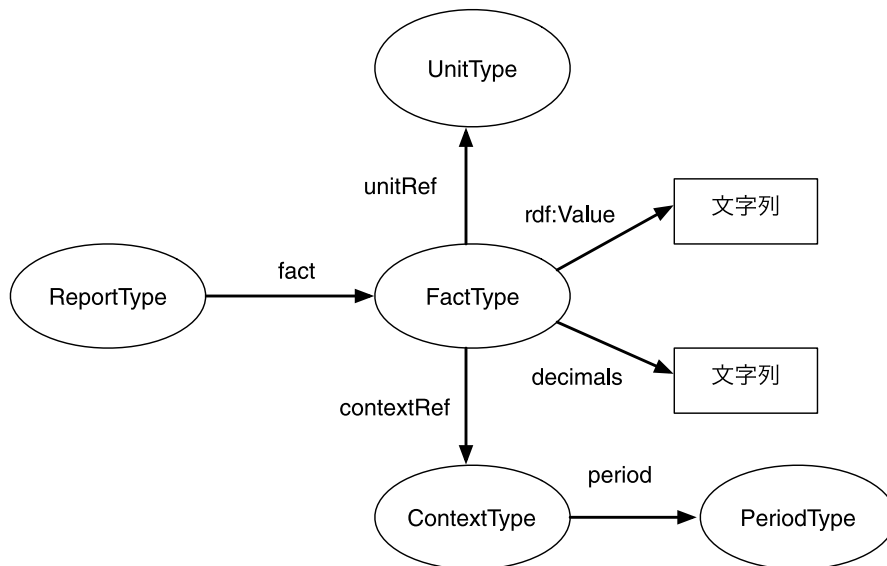


図9 XBRLのRDFグラフ

図9のRDFグラフは、ReportTypeというクラスがfactという属性をもったFactTypeというクラスから構成されており、FactTypeにはunitRefという属性をもったUnitTypeというクラス、contextRefという属性をもったContextTypeというクラスがあること、さらにContextTypeにはperiodという属性をもったPeriodTypeというクラスがあることを示している。FactTypeはそのクラスの値である文字列であることを示している。

例えば貸借対照表に記載される現金及び預金であれば、貸借対照表(ReportType)に含まれる現金及び預金(FactType)には単位(UnitType)、期間(PeriodType)という属性があり、その値はある金額(文字列)であるということを示している。

このRDFグラフをもとに、[5]では独自のツールで図10のようなXBRLインスタンス(一部)を図11のようなRDF/XMLに変換している。

```
<usfr-pte:CashCashEquivalents decimals="-3" contextRef="AsOf20061201_Consolidated_Unaudited" unitRef="USD">77250000</usfr-pte:CashCashEquivalents>
```

図10 XBRLインスタンス(一部)

(6) ここでは[5, p.116]のRDFグラフを一部省略し、[9]で示されている表記方法に修正している。

```

<xbrli:item>
<usfr-pte:CashCashEquivalents>
<rdf:type rdf:resource="#xbrli;monetaryItemType"/>
<xbrli:unitRef rdf:resource="http://dbpedia.org/resource/USD"/>
<xbrli:decimals>-3</xbrli:decimals>
<xbrli:contextRef rdf:resource="#AsOf20061201_Consolidated_Unaudited"/>
<rdf:value>772500000</rdf:value>
</usfr-pte:CashCashEquivalents>
</xbrli:item>

```

図11 RDF/XMLへ変換されたXBRLインスタンス(一部)

ここでは、これを参考にEDINETの開示書類の一部をRDF/XMLで記述してみよう。“xbrli”は、名前空間を表す接頭辞で、“xbrli”が付加された要素は、XBRLのスキーマで定義されている要素であることを示している。また、“rdf:type”は、現金及び預金が貨幣項目に属することを示しており、“rdf:resource”は、定義の場所を示している。ここでは貨幣項目がXBRLスキーマの中で定義されていることを表している。そして、“rdf:value”で現金及び預金の値である金額が示されていることがわかる<sup>(7)</sup>。

```

<xbrli:item>
<jppfs_cor:CashAndDeposits>
<rdf:type rdf:resource="#xbrli;monetaryItemType"/>
<xbrli:unitRef="JPY"/>
<xbrli:decimals>-6</ix:decimals>
<rdf:value>35125000000</rdf:value>
</jppfs_cor::CashAndDeposits>
</xbrli:item>

```

図12 RDF/XMLへ変換されたEDINETのXBRLインスタンス

このようにXBRLインスタンスがRDFとして表現されることは開示書類の利用者の利便性は飛躍的に向上する。利用者は開示書類と他のRDFで公開されている情報を合わせて検索できるからである。[6]で示されているように、米国では、株価の時系列情報、政府の統計データ、ニュース記事などさまざまな情報がRDFとして提供されており、XBRLインスタンスがRDFに変換されることでこうした情報を一緒に利用することが可能になる。

## 6 おわりに

本研究では、XBRLの導入により開示書類の利用者の利便性が向上することが期待できるが、一般の利用者にはXBRLの理解は難しいこと、また他のさまざまな情報と合わせて利用したいというニーズがあることを指摘した。

(7) 名前空間やスキーマについては[8, pp.116-121]を、RDF/XMLの構文については[9, pp.24-47]を参照されたい。

その上でセマンティック Web 技術を利用して XBRL 形式の財務諸表をさまざまな形式に変換しようという研究の中から、財務諸表を RDF で記述しようという研究を取り上げ、EDINET の開示書類の XBRL インスタンスの一部を RDF/XML で記述することを試みた。RDF はトリプルという単純な形でリソースを表現しようというもので、これを使って XBRL インスタンス全体を表現することができれば、開示書類の利用者の利便性は大きく向上すること期待できる。

一方で、財務諸表本体を RDF でどう記述するかはさまざまな方法が考えられる。RDF はトリプルという単純な記述方法であるため、柔軟な表現が可能になる反面、どのような記述も可能になる。財務諸表を RDF でどう記述するか十分な検討が必要になるだろう。

Wikipedia から RDF を使って情報を抽出しようという DBpedia プロジェクトなど、RDF を使ったさまざまな情報が共有、リンクされるために公開されている。開示書類が電子化されることで、利用者の利便性が向上したことは間違いないだろう。しかし、開示書類に含まれる財務諸表をはじめとした事業情報が、そうした情報と共有、リンクされれば、さらに情報の有用性は向上することが期待できる。

#### 参考文献

- [1] Bao, Jie and Rong, Graham and Li, Xian and Ding, Li, “Representing Financial Reports on the Semantic Web”, Dean, Mike and Hall, John and Rotolo, Antonino and Tabet, Said ed. *Semantic Web Rules*, Springer Berlin, 2010, pp.144–152.
- [2] Curé, Olivier and Guillaume Blin, *RDF Database Systems: Triples Storage and SPARQL Query Processing*, Elsevier, 2015.
- [3] Cyganiak, Richard and David Wood, Markus Lanthaler, *RDF 1.1 Concepts and Abstract Syntax*, 25 February 2014, <http://www.w3.org/TR/2014/REC-rdf11-concepts-20140225/>
- [4] Declerck, Thierry and Hans-Ulrich Krieger, “Translating XBRL Into Description Logic. An Approach Using Protégé, Sesame & OWL”, *Proceedings of the 9th International Conference on Business Information Systems*, 2006.
- [5] Garcia, Roberto and Gil, Rosa, “Linking XBRL Financial Data,” David Wood ed., *Linking Enterprise Data*, Springer US, 2010, pp.103–125.
- [6] Li, Xian and Jie Bao and James A. Hendler, *Fundamental Analysis Powered by Semantic Web*, <http://tw.rpi.edu/media/latest/cifer.pdf>, 2010.
- [7] XBRL International, *Inline XBRL Part 1: Specification 1.1*, 2013, 2013, <http://www.xbrl.org/specification/inlinexbrl-part1/rec-2013-11-18/inlinexbrl-part1-rec-2013-11-18.html>.
- [8] 石綿勇, 坂上学監修, 『XBRL の実務会計実務のための XBRL 入門』, 同友館, 2008。
- [9] 神崎正英, 『セマンティック・ウェブのための RDF/OWL 入門』, 森北出版, 2005。
- [10] 金融庁総務企画局企業開示課, 『EDINET タクソノミの概要説明』, 2013.8, [http://www.fsa.go.jp/search/20140310/1b\\_1.pdf](http://www.fsa.go.jp/search/20140310/1b_1.pdf)
- [11] 坂上学, 『新版 会計人のための XBRL 入門』, 同文館, 2011。

- [12] トム・ヒース, クリスチャン・バイツァー著, 武田英明監訳, 大向一輝, 加藤文彦, 嘉村哲郎, 亀田堯宙, 小出誠二, 深見嘉明, 松村冬子, 南佳孝, 『Linked Data: Webをグローバルなデータ空間にする仕組み』, 近代科学社, 2013.
- [13] T. バーナーズ＝リー, J. ヘンドラー, O. ラッシーラ, 「自分で推論する未来型ウェブ」, 『日経サイエンス』, 2001年8月号, pp.54-65. (Berners-Lee, T., Hendler, J., & Lassila, O. (2001, 05). "The semantic web", *Scientific American*, 284, pp.35-43.
- [14] 日本公認会計士協会IT委員会, IT委員会研究報告第44号「新EDINETの概要とXBRLデータに関する監査人の留意事項」, 2014年4月15日。  
(2015.1.20受稿, 2015.2.17受理)

## 〔抄 録〕

本研究は、電子化された開示書類の記述形式について検討を行った。現行EDINETでは、XBRLの対象書類と対象項目が拡大され、利用者の利便性が向上することが期待できるが、一般の利用者にはXBRLの理解は難しいこと、また他のさまざまな情報と合わせて利用したいというニーズがあることを指摘した。

その上でセマンティック Web 技術を利用してXBRL形式の財務諸表をさまざまな形式に変換しようという研究の中から、財務諸表をRDFで記述しようという研究を取り上げ、EDINETの開示書類のXBRLインスタンスの一部をRDF/XMLで記述することを試みた。RDFはトリプルという単純な形でリソースを表現しようというもので、これを使ってXBRLインスタンス全体を表現することができれば、開示書類の利用者の利便性は大きく向上すること期待できる。

一方で、財務諸表本体をRDFでどう記述するかはさまざまな方法が考えられる。RDFはトリプルという単純な記述方法であるため、柔軟な表現が可能になる反面、どのような記述も可能になる。財務諸表をRDFでどう記述するか十分な検討が必要になるだろう。

WikipediaからRDFを使って情報を抽出しようというDBpediaプロジェクトなど、RDFを使ったさまざまな情報が共有、リンクされるために公開されている。開示書類が電子化されることで、利用者の利便性が向上したことは間違いないだろう。しかし、開示書類に含まれる財務諸表をはじめとした事業情報が、そうした情報と共有、リンクされれば、さらに情報の有用性は向上することが期待できる。

—Abstract—

The purpose of this research is to examine transformation from XBRL instance to RDF(Resource Description Framework). Financial Service Agency(FSA) introduced inlineXBRL to new EDINET, so users will be able to make use of financial information easily. The other hand, users want to use financial information and other information combinedly. In this research, XBRL instances on EDINET are transformed to RDF/XML. Financial information users will be able to mash up this RDF and various information around the world. This transformation will make financial information more available to users.